

人文科学研究所 公開研究会

日時 2018年12月22日（土）15:00～17:30

場所 多摩キャンパス2号館4階研究所会議室2

講師：中山 誠二 氏（帝京大学文化財研究所客員教授）

テーマ：「縄文時代に農耕はあったのか？—今、植物考古学から考える—」

要旨：「縄文農耕論」は、日本の近代考古学の中でも非常に重要なテーマとして、約百年にわたって論争が続いてきた課題である。今世紀に入り、植物考古学の研究手法がめざましく発展する中で、この問題に終止符をうつべき発見が相次いでいる。本講演会では、この古くて、新しい課題について、改めて植物考古学の最新研究から問い直してみたい。

講師：西川 広平 研究員（文学部准教授）

テーマ：「中世の地域景観を探る—文献史学を越えた試み—」

要旨：歴史学（文献史学）では、中世における荘園や村落の景観をどのように研究してきたのか。文献史料が限られた地域を対象とした研究の事例をとおして、学際的な諸分野のデータを交えた研究手法の有効性について考える。

主催：研究会チーム 「考古学と歴史学」

連絡先：研究所合同事務室 人文科学研究所担当

電話：042-674-3270

E-mail：jinbun@tamajs.chuo-u.ac.jp